

# いのち輝くいつせの里

前山小学校 校長だより

令和6年2月20日

文責 植木政行

## 『大好きな前山小学校へ』 神戸親和大学 教育学部 4年 余田愛実

2008年4月に前山小学校へ入学しました。私は、人見知りをせず誰にでも話しかけたり、いろいろなことに興味をもっていたりしたため、じっとしていることが苦手な子どもでした。

家から学校までの距離が遠かった登下校では、同じ地区の子たちと遊びながらわいわいと通っていました。石蹴り、鬼ごっこなどをして列を乱し、ナンテンの実を見つければ採って人に投げ、競争するように走って帰るときもありました。何度も地区児童会で担当の先生に怒られ、大人しく登下校をするためにはどの並び順がいいのか話し合っていました。リレーカーニバルに向けた朝練習を行っていた際には、楽しみで友だちと走って登校していました。どの先生よりも早く着きすぎてしまい、校舎が開いておらずブランコで遊びながら待っていたこともありました。

いつも騒がしかった授業では、まるでクイズ大会をしているかのように我先に手を挙げて発表をしていました。間違っていることも多々ありましたが、正解して先生に褒められることや同級生からの「すごい」という声が欲しくて何度も発表をしていました。思い出に残っている授業はたくさんありますが、その中でも特に印象的な授業は算数の平均を求める授業です。自分の歩幅の平均を求めるために、何度も廊下を歩きました。そして、その日、学校から家までの距離を自分の歩幅の平均を使って求めるという宿題が出されました。私は同じ地区の子に何度も邪魔をされながらも必死に家まで歩いた歩数を数え、後日授業で発表したことを覚えています。

学校で過ごす時間の中で一番好きだった休み時間では、男の子たちと一緒に校庭で遊んでいました。幼い頃からサッカーをしていたため体を動かすことが楽しくて、5分間の休み時間にも外へ遊びに行き、授業に遅れ、よく先生に怒られていました。サッカー、キックベース、缶蹴り、ドッジボールなどたくさんの遊びをしました。何度もチーム分けや勝敗について揉めて喧嘩をしていましたが、授業の時間で休憩すると、次の休み時間にはまた仲よく遊んでいました。

私は一昨年の9月に教育実習生として久しぶりに前山小学校へ行きました。子どもたちと過ごす日々はとても楽しく、1カ月があつという間に過ぎていきました。運動会も参加させていただき、本番に向けて何度も練習し、上達していく姿や自分の力を精一杯出そうと挑戦している姿を見てとても感動しました。先生方にはお忙しいなか何度も授業づくりや子どもとの接し方などについてご指導をいただきました。

共に学んだ同級生、何度も褒めてくださった先生方、優しく見守ってくださった地域の方々。前山小学校に関わる全ての人たちのおかげで私は今、楽しく過ごすことができていると思います。これからは尊敬する先生方のように、私も子どもたちの未来を応援する先生を目指して頑張っていきたいと思います。そして、前山小学校で学んだことをこれから先も繋いでいきたいと思います。

「大好きな前山小学校。ありがとう。」



前に出てラジオ体操をする様子



試合でシュートを打つ様子



帰ってすぐ遊びに行こうとしている様子



## 『前山小学校の思い出』 丹波市市島支所 支所長 松枝満

私は、昭和49年に前山小学校に入学しました。卒業時の同級生は20名でした。

1年生、2年生の頃の私は、兎に角落ち着きがなく、気の短い子供でした。ある日、1年生の授業中に同級生が私の方を向いて“あっかんべえ”をしたのに我慢ができず、立ち上がってその席まで行き、頭をゴツンとやって、先生にとっても叱られたことがありました。こんな調子なので、一人だけ椅子に縛りつけられたことが何度もありました。

2年生の時には、授業中に暑くて下敷きを団扇代わりにして扇いでいると、先生から「そんなに熱いなら服を脱いでも構わない。」と言ってもらったので、それを真に受け、以来暑い時には上半身裸で過ごしていました。ただ、授業参観日も変わらず裸でいたものですから、当然ながら家に帰って母親にこっ酷く叱られ、また「情けない」と母親を泣かせてしまい、それ以後はさすがに反省し、裸で授業を受けることはなくなりました。

3年生になっても、勉強嫌いの私はいつも授業に集中できない子供でしたが、ある日の授業で発表した時、初めて先生に褒めてもらい、それがとても嬉しくて、その日を境に褒めてもらいたくて真面目に授業を受けるようになりました。また、同級生数人と先生の久良部の自宅へ遊びに行き、ボードゲームをし、初めてココアを飲ませてもらって、凄く美味しかったのを覚えています。

4年生になると、少年野球チームに入りましたが、この頃から段々と体つきが横方向に成長し、現在のようなポッチャリ？体型になりました。そんな体型なので、走るのもダメで、レギュラーに成れたのは6年生になってからでした。

一番の思い出は、野球とは関係なく、試合のたびに母が作ってくれるお弁当です。当時の監督が、“お弁当が派手になり過ぎるのは良くない”との方針で、全員が日の丸弁当かおにぎりだけで、おかずは禁止と決められていました。母親は、私がそれに耐えられるとは思えなかったのか、私の頭よりも大きなおにぎりを作り、その中にウインナーや唐揚げ、玉子焼きなどを具にして持たせてくれました。それを見た同級生が面白がって大騒ぎしたので、監督に見つかってしまい、叱られるかと思いましたが、「松枝はしゃあない。」と苦笑いで見逃してくれました。

5年生の時は、運動場裏の前山川に自分の身長よりも深い場所があり、そこで生き物の調査と称して先生公認の上で海パン一丁になって、同級生と潜って遊んだことがありました。また、夏休みには、小学校の運動場でキャンプをし、昼間は地区内のお寺や神社を自転車で巡って、最後に前山川で鮎のつかみ取りをして、焼いて食べさせてもらいました。

6年生になると、神池寺での町内小学校合同のキャンプがあり、小学校ごとに少年野球で見知っていた同級生が多くいて、最後にはニックネームで呼び合う程、皆と仲良くなることができました。また、奈良への修学旅行はひどい雨で、足首まで水に浸かりながら正倉院前を歩きました。大仏殿の鼻の穴くぐりでは、同級生が楽しそうにくぐるのを横目に、完全なポッチャリの私は、直ぐに穴を見て無理だと判断しましたが、自分だけできないのが、本当に悔しかったことを覚えています。

旧校舎1階の廊下には、歴代卒業生の記念写真があり、私の姉や叔父さん、叔母さん、近所のお兄さん、お姉さんを探して見つけるのも楽しみでした。

このように改めて思い返すと、先生や周りの方には、ご迷惑をお掛けしたことへのお詫びの気持ちと、同時に色々な方々に支えていただいていたのだと感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。ただ、思い出深く、連綿と続いてきた前山小学校が閉校を迎えることは、本当に寂しいですが、私がそうしていただいたように、これからの子供たちの成長を見守り、活躍に期待したいと思います。



2年生須磨水族館見学



矢代公民館の前で



少年野球を通して大きく成長



思い出いっぱいの修学旅行